

[4] 住吉区北部

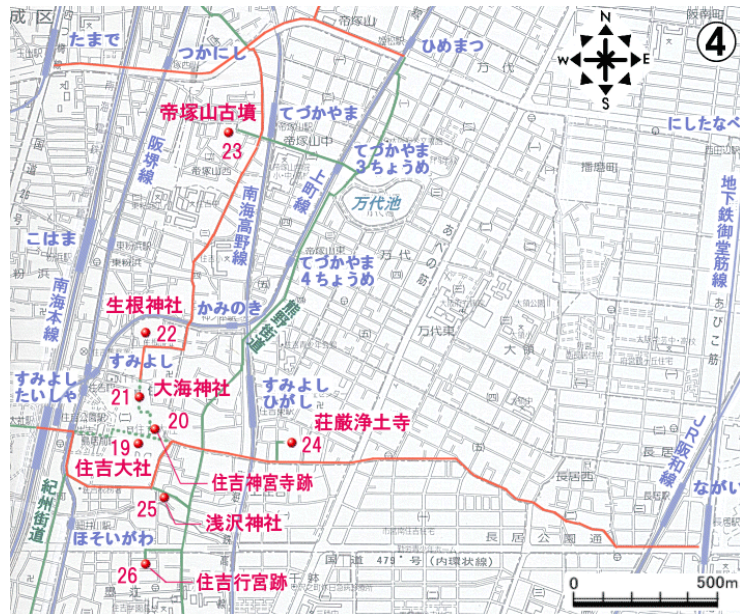
- 19 住吉大社 (住吉区住吉二丁目9)
- 20 住吉神宮寺跡：神宮寺は神仏混淆の名残で、平安時代には有名神社のほとんどもに設けられたという。住吉神宮寺は天平宝字2年(758)の創建と伝えられる。(住吉区住吉二丁目9)
- 21 大海神社 (住吉区住吉二丁目9)
- 22 生根神社＝奥の天神 (住吉区住吉二丁目3)
- 23 帝塚山古墳：市内に残る最大級の前方後円墳で、墳丘長 約120m、後円部の直径約57m、高さ 約10m、前方部の幅 約50m の規模を持っている。被葬者は大伴金村と伝えられるが不詳である。(住吉区帝塚山西二丁目8)
- 24 莊嚴浄土寺 (住吉区帝塚山東五丁目11)
- 25 浅沢神社 (住吉区上住吉二丁目11)
- 26 住吉行宮跡：南北朝時代、後村上天皇はたびたび住吉大社に行幸し、住吉大社神主津守氏の邸内にあった正院殿を行宮にした。(住吉区墨江二丁目7)



21 大海神社



26 住吉行宮跡



紀州街道

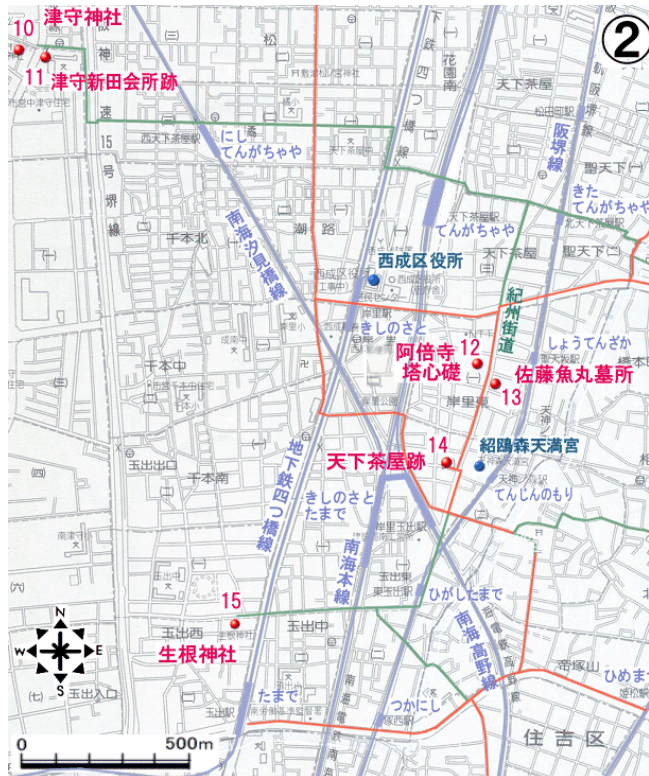
高麗橋を起点とする紀州街道は、堺筋を南下し、恵美須町付近から一つ西の筋に移ってさらに南下、住吉大社の西側を通過して大和橋を渡り、堺そして和歌山へ向かう。

市内の道筋は、ほぼ全線にわたり現在の道路と一致する。沿道は早くから市街化したこともあって、商店街を形成しているところが多い。



[2] 西成区

- 1 津守神社 (西成区津守三丁目4)
- 2 津守新田会所跡: 津守新田は京都の横井源左衛門・金屋源兵衛によって元禄11年(1698)に工事がはじめられ、3年かかりで72町部(約7.1km²)が干拓された。この会所の庭園は「向月庭」と呼ばれ、春日出新田会所の「八州軒」とともに有名であった。
(西成区津守三丁目1、津守幼稚園正門内側)
- 3 阿倍寺塔刹柱礎石: 阿倍野区松崎町2丁目にあった「阿倍寺」の塔の礎石を移したもの。
(西成区岸里東一丁目、天下茶屋公園内)
- 4 佐藤魚丸墓所: 魚丸は江戸時代後期、寛政から文化年間に活躍した文人。滑稽本「川太郎一代噺」を出版したほか、浄瑠璃作家、狂歌師としても活躍した。(西成区岸里一丁目7、安養寺)
- 5 天下茶屋跡: この辺りは千利休の師である武野燭燭が隠棲したところで、豊臣秀吉が住吉大社への参詣や堺に行くときに、度々立ち寄りて茶の湯を楽しんだという。「天下茶屋」の名は、太閤殿下の茶屋「殿下茶屋」がなまったものといわれる。(西成区岸里東二丁目10)
- 6 生根神社 (西成区玉出西二丁目1)



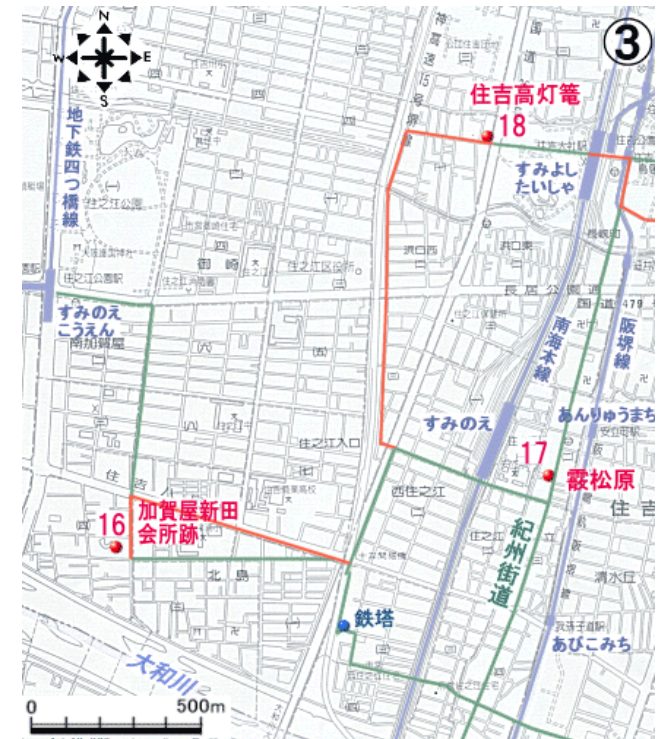
5



12 阿倍寺塔刹柱礎石

[3] 住之江区

- 7 加賀屋新田会所跡: 延享2年(1745) 加賀屋甚兵衛によって干拓された新田の会所で、小堀遠州流の築山林泉式庭園や数奇屋風の建物が現存し、「偷園」と名づけられ大阪名園の一つとなっている。
(住之江区南加賀屋四丁目8-7)
- 8 霰松原: この付近は江戸時代中期までは海岸線であった。白砂青松の名勝の地で、万葉集にも歌われている。また松風が霰を吹きつけるように響いたところからこの名がある。
(住之江区安立二丁目11)
- 9 住吉高灯籠: 常夜灯と灯台の役割を併せ持つこの高灯籠は、住吉大社への献灯も兼ねて建立されたといわれている。創建年代は不詳であるが、江戸時代の名所図会などには必ず紹介されていた。元はここから西へ200mの十三間川のほとりにあったが、阪神高速道路の工事に伴い当地に移転した。(住之江区浜口西一丁目1)



12 住吉高灯籠

6